

## 試験方法

### (1)室内平面音圧分布

知名オーディオ指定の位置にスピーカーを設置し、リアルタイムアナライザ内蔵のジェネレータより音響信号を発生させた。音響信号にはピンクノイズを用いた。これを室内周辺部を除いて500mmピッチに配置した合計56点で受音、分析することとした。マイクロホン高さは〔床面+1.2m〕とした。

### (2)角度依存音圧分布

配置したスピーカーのうち1本を使用し、スピーカーセンターから2mの距離において0°～90°の範囲で、3°ピッチで受音、分析を行った。マイクロホン高さは室内平面音圧分布と同様に〔床面+1.2m〕とした。音響信号は室内平面音圧分布と同じピンクノイズを用いた。

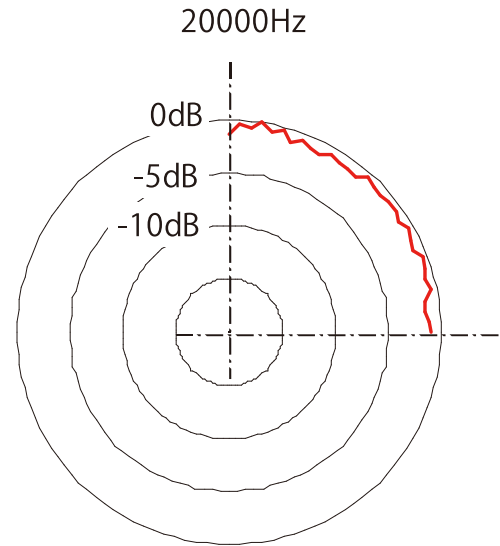


図 2.6.31 20000Hz バンド

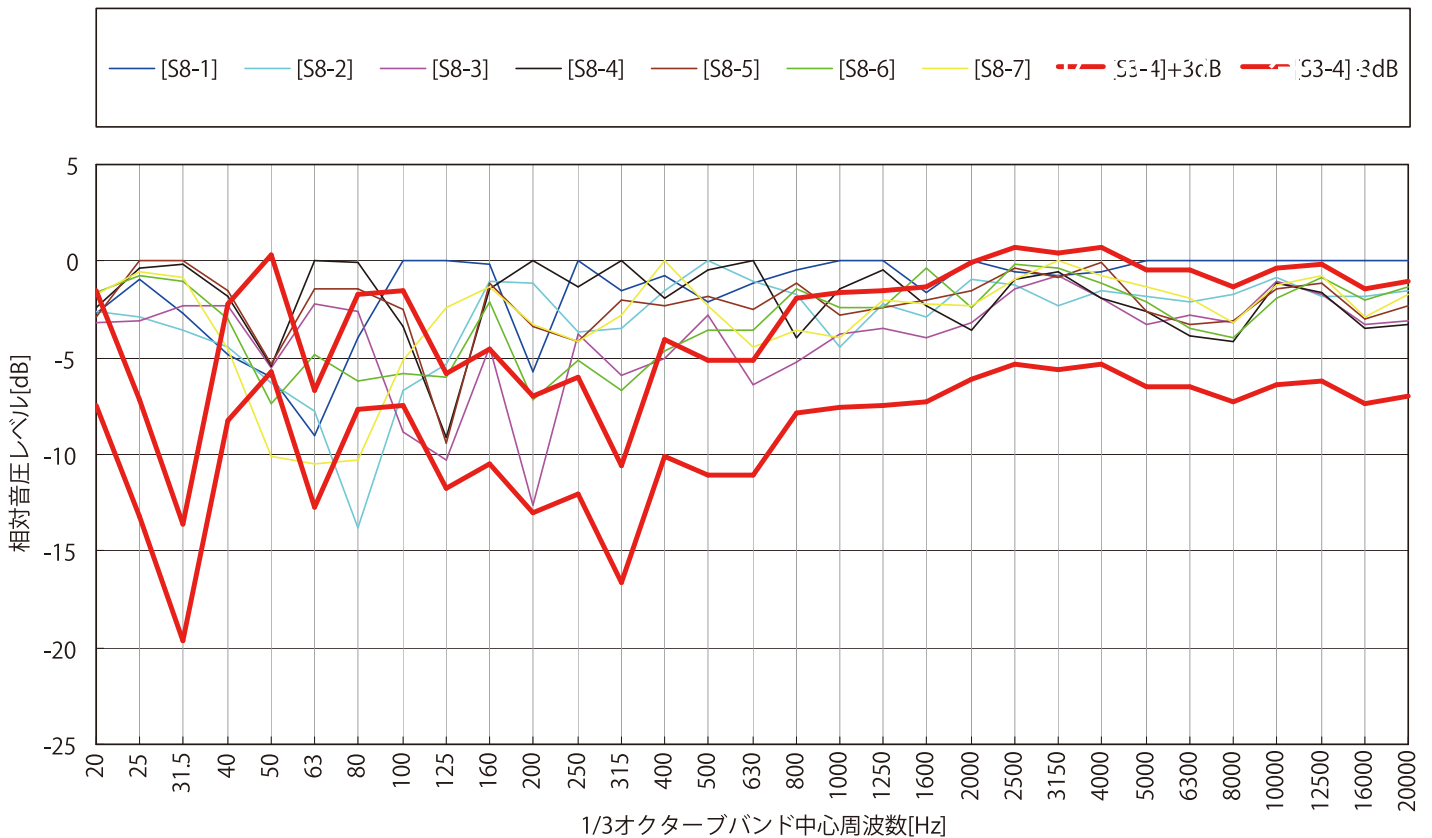


図 2.2.1 周波数特性比較 [基準点-S8 ライン]

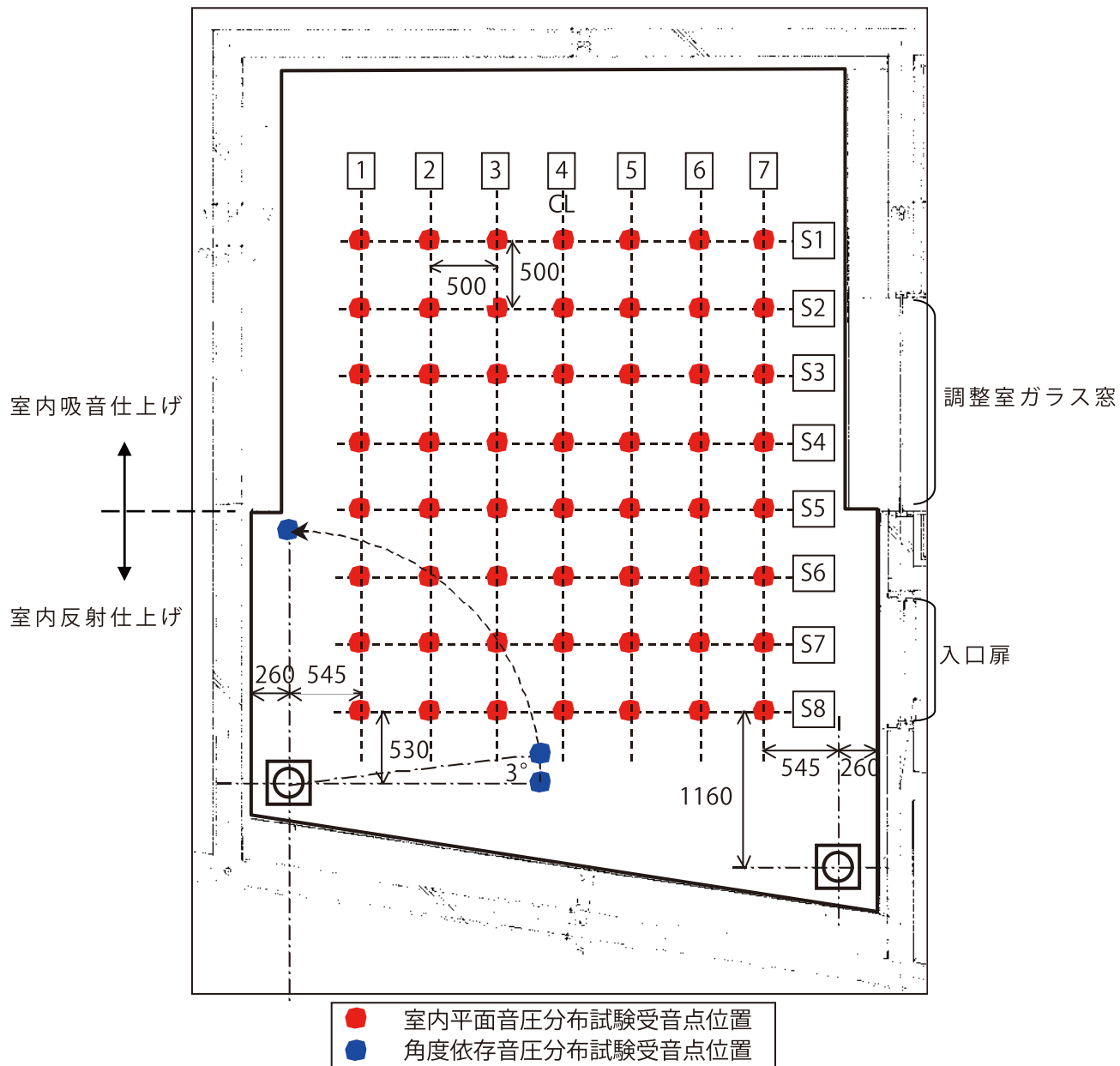


図 1.1 受音点位置

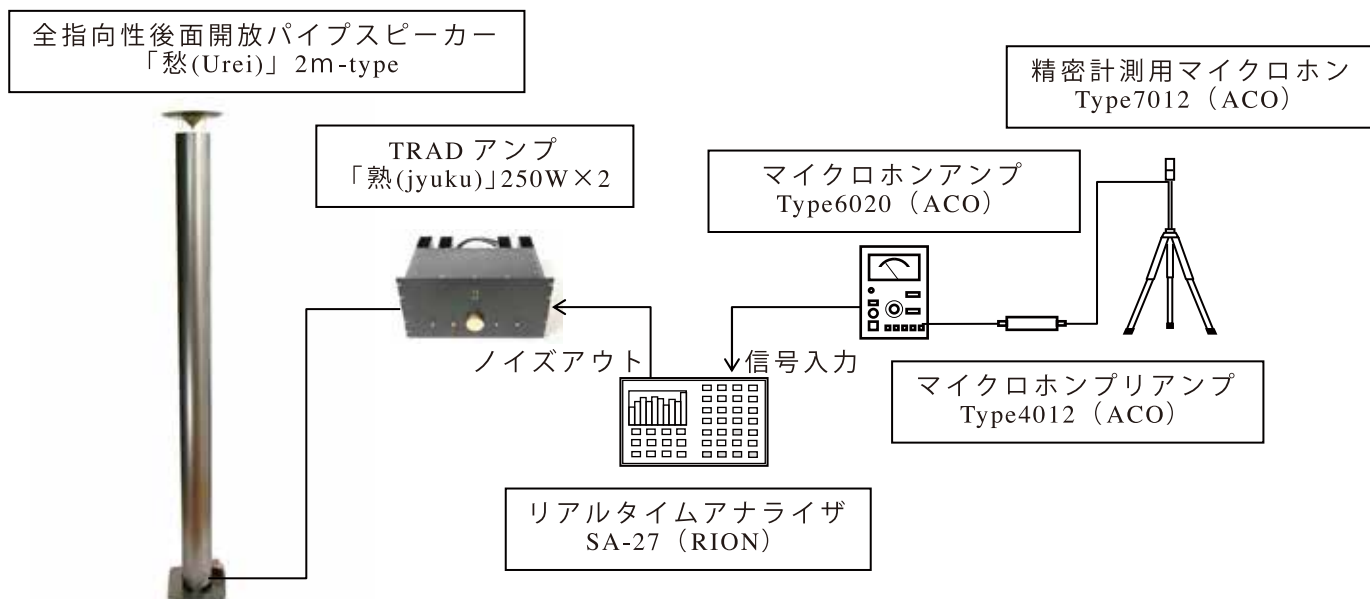


図 1.2 使用機器構成

## 2. 試験結果

### 2.1 室内平面音圧分布試験

#### (1) 周波数特性比較

全 56 点で得られた周波数特性の比較を行う。

図 2.1 に示す基準点 [S3-4] における 1/3 オクターブバンド周波数特性をリファレンスとして、各受音点における周波数特性を比較して示す。なお、全点同時比較は煩雑になるため S1~S8 ラインごとに [リファレンスレベル $\pm$ 3dB] を併記して示すこととする。(図 2.2.1~図 2.2.8 参照)

なお、1/3 オクターブバンドレベルは全レベルのうち最大値を [0dB] としたときの相対音圧レベルで示している。

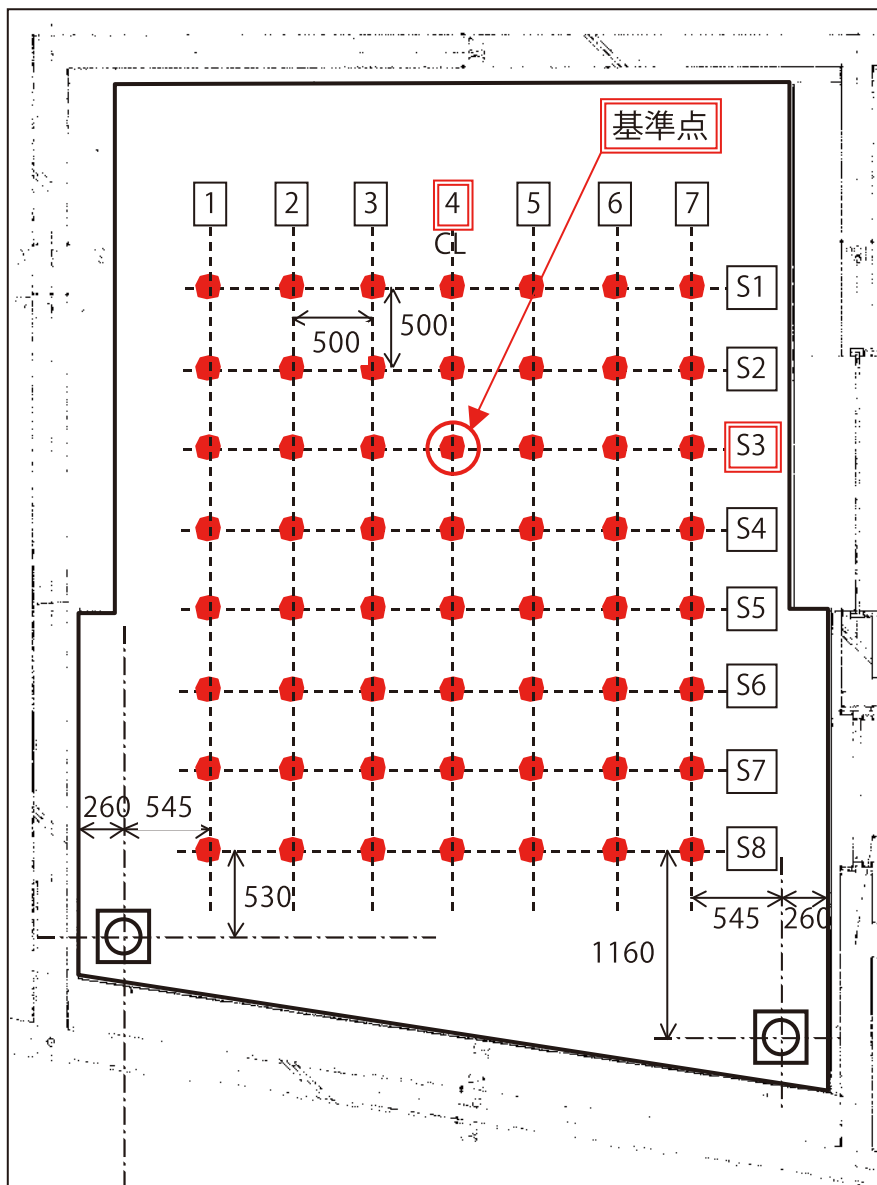


図 2.1 基準点位置